小学校 5・6年

『クローディアの秘密』
毎日が退屈で、長女は損ばかり。嫌気がさした11歳のクローディアは、弟を誘って家出をし、メトロポリタン美術館の中にかくれ住んだ。今と違った新しい自分になりたいという願いを胸に、あるなぞ解きに夢中になる。

E.L.カニグズバーグ 作
松永ふみ子 訳　岩波書店

『シャーロットのおくりもの』
子ブタのウィルバーは、小さく生まれて殺されそうになったところを農場の娘ファーンに助けられたが、次は、ハムにされてしまうことに。今度は、友達のクモのシャーロットが奇跡を起こして救ってくれる。命と友情の物語。

E.B.ホワイト 著
ガース・ウィリアムズ 絵
さくまゆみこ 訳　あすなろ書房

『チョコレート工場の秘密』
とても貧乏な家の男の子チャーリーは、幸運にも板チョコに入ったくじを引き当て、あこがれのチョコレート工場を見学できることに。招かれた5人の子どもたちが工場の中で目にするものとは…。辛口ユーモアあふれる物語。

ロアルド・ダール 作
クェンティン・ブレイク 絵
柳瀬尚紀 訳　評論社

『トムは真夜中の庭で』
夏休みの間、おばさんの家に預けられたトムは、真夜中に古時計が13回鳴るのを聞いた。すると、家の裏口に昼間にはなかった庭園があらわれ、トムは昔風の服を着たハティという少女に出会う。トムとハティは友だちになって…。

フィリパ・ピアス 作　高杉一郎 訳
スーザン・アインツィヒ 絵
岩波書店

『二年間の休暇』
夏の休暇にヨットで船旅を楽しむはずだった寄宿学校の少年たちは、大人を乗せずに船出してしまい、無人島に流される。船はこわれ、助けはのぞめない。少年たちは無人島で自分ないに生活しようと力を合わせ、困難に立ち向かう。

ジュール・ベルヌ 作　朝倉剛 訳
太田大八 画　福音館書店

『ふたりのロッテ』
夏休みの林間学校で出会ったロッテとルイーゼ。ふたりは髪型以外そっくりだった。自分たちがふたごの姉妹であることを知ったふたりは、別れた両親を仲直りさせようと考え、入れかわりを計画する。

ケストナー 作　高橋健二 訳
トリヤー 絵　岩波書店

『魔法使いのチョコレート・ケーキ』
魔法はへただがおいしいチョコレート・ケーキを作る魔法使いが、子どもたちを招待してパーティーを開こうとしても、だれ一人やって来ない。そこでりんごの木を相手にお茶会を開くと…。他7編の物語と詩2編を収録した短編集。

マーガレット・マーヒー 作
シャーリー・ヒューズ 画
石井桃子 訳　福音館書店

『モモ』
ある日モモの住む町に灰色の男たちがやってきて、人々の時間を盗むようになる。心を惑わされた人々は、家族や友達との時間そっちのけで、休みなく働くようになってしまう。モモは盗まれた時間を取り戻そうと灰色の男たちに立ち向かう。

ミヒャエル・エンデ 作　大島かおり 訳
岩波書店

『ライオンと魔女（ナルニア国ものがたり1）』
戦争をさけるために田舎へ預けられた4人の兄妹は、古いタンスのむこうの不思議な国ナルニアに入り込んでしまう。恐ろしい白い魔女に支配された国を取り戻すため、真の王アスランとともに戦う4人の冒険物語。

C.S.ルイス 作　瀬田貞二 訳
ポーリン・ベインズ 絵　岩波書店★

『絵で読む広島の原爆』
人類最初の原子爆弾が投下された広島の町を、生き残った人々の証言をもとに描いた絵本。原爆がなぜ作られ、なぜ広島に投下されたのかが、わかりやすく解説されている。被爆後50年間の核に関するできごとも まとめられている。

那須正幹 文
西村繁男 絵
福音館書店

『アラスカたんけん記』
学生時代にアラスカに魅了された著者は、カメラマンとなり再びアラスカへ。カヌーで氷河の崩壊に遭遇したり、カリブーの群れを追いかけ雪道をひたすら歩いたりと、大自然の中で奮闘した体験を臨場感あふれる写真とともに記す。

星野道夫 文・写真
福音館書店

『カワセミ 青い鳥見つけた』
「青い宝石」といわれる美しい野鳥、カワセミ。日本中に生息するが、なかなか見ることができないその姿を数多くの写真で紹介。カワセミに魅せられて写真家となった著者による、水中での狩りの瞬間をとらえた写真がすばらしい。

嶋田忠 文・写真
新日本出版社

『わきだせ!いのちの水 日本伝統の上総掘り井戸をアフリカに』
水くみに苦労しているアフリカの人々の役に立ちたい。交通事故にあったことをきっかけに、日本の伝統技術「上総掘り」を応用し、現地の人々を指導しているっしょに井戸を掘る大野さん。開発途上国で井戸を掘り続ける大野さんの活動を紹介する。

たけたにちほみ 著　フレーベル館

『わらしべ長者 日本民話選』
びんぼうな若者が手に入れた一本のわらが、いろいろなものと交換されていくうち、ついには大金持ちになるお話「わらしべ長者」をはじめ、劇作家である著者が、民話の語り口調を生かして再話した民話集。「かにむかし」など22話を収録。

木下順二 作　赤羽末吉 画
岩波書店

●小学校5・6年
『クマのプーさん』…A.A.ミルン 作　石井桃子 訳　E.H.シェパード 絵　岩波書店★
『のっぽのサラ』…パトリシア・マクラクラン 作　金原瑞人 訳　中村悦子 絵　徳間書店★
『バッテリー』…あさのあつこ 作　佐藤真紀子 絵　教育画劇★
『ムーミン谷の彗星(ムーミン全集1)』…トーベ・ヤンソン 著　下村隆一 訳　講談社★
『ローワンと魔法の地図』…エミリー・ロッダ 作　さくまゆみこ 訳　佐竹美保 絵　あすなろ書房★
『床下の小人たち』…メアリー・ノートン 作　林容吉 訳　岩波書店★
『大きな森の小さな家』…ローラ・インガルス・ワイルダー 作　恩地三保子 訳　ガース・ウィリアムズ 画　福音館書店★
『霧のむこうのふしぎな町』…柏葉幸子 作　杉田比呂美 絵　講談社
『命のバトンタッチ』…今西乃子 著　岩崎書店★
『ウィロビー・チェースのオオカミ』…ジョーン・エイキン 作　こだまともこ 訳　パット・マリオット 画　冨山房★

「家読（うちどく）」のススメ

「家庭ふれあい読書」を意味する「家読（うちどく）」は、「家族みんなで読書をすることで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的とした読書運動です。「子どもと本をつなぐ・子どもの本でつながる」そんな素敵なひとときを過ごしてみませんか。各ご家庭に合った方法で、本に親しみましょう。

- ○ 家族で同じ本を読み、感想を話す
- ○ 家族で絵本を読みながら楽しい時間を過ごす
- ○ 大人が子どもに本を読み聞かせる
- ○ 家族で読書の日や読書タイムを設ける
- ○ 子どもが大人や家族に本を読む
- ○ 大人が子どもに読書の思い出を語る　など

- ● 対象学年は目安です。シリーズや続編のある作品には、出版社名に★印がついています。
- ● ここで紹介する本は、千葉県内の図書館司書が所属する、千葉県公共図書館協会が選んだものです。
- ● このリーフレットは千葉県教育委員会のホームページからダウンロードできます。非営利目的に限り、複製・配付ができます。

発行／千葉県教育庁教育振興部生涯学習課
〒260-8662 千葉市中央区市場町1番1号　TEL：043-223-4072　FAX：043-222-3565
https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/shougaku/dokusho/index.html

保護者の皆様へ

みんなで取り組む 千葉の教育

100冊 友だちできるかな？

図書館司書が選んだ（小学生向け）

子どもに読んでほしい本100選

千葉県マスコットキャラクター チーバくん

千葉県教育委員会

～「子どもと本をつなぐ」・「子どもの本でつながる」読書活動～

読書習慣を身に付けるためには、子どもが本の楽しさや魅力を感じる機会が必要です。本に触れるきっかけがあり、手を伸ばすと好きな本や調べたい本がある。「子どもと本をつなぐ」取組や読書環境が本好きの子どもを育てます。

また、社会には、読書の大切さを知り、子どもの健やかな成長を願う人が多くいます。その人々がもっている知識・情報・技能・思い等は多様です。そうした大人同士や大人と子どもが読書活動でつながる、すなわち、「子どもの本でつながる」ことで生まれる効果は計り知れません。

ここに紹介する本は、千葉県内の図書館司書が、子どもたちやご家族の方にぜひおすすめしたい本として選んだものです。ご家庭で過ごすひとときに、お子さんと一緒に本を読んでみませんか？

お子さんとの絆を深める大切な時間となり、保護者の皆様も読書の楽しさを改めて発見できるのではないでしょうか。

小学校 1・2年

『おしいれのぼうけん』
ミニカーのとりっこでけんかして、保育園の押入れに入れられたさとしとあきら。暗い押入れに怖いおばあさんが現れ、二人は手をつないで夜の町を逃げ回る。次々とかわる場面と二人の大冒険が読み応えたっぷりの絵本。

ふるたたるひ、たばたせいいち 作
童心社

『なぞなぞのすきな女の子』
なぞなぞの大すきな女の子が、ある日なぞなぞ遊びの相手を探しに森へ出かけると、お腹をすかせたオオカミにばったり出会う。女の子はオオカミになぞなぞを出すが、オオカミはなかなか当てられない。賢い女の子とオオカミのかけあいが楽しい物語。

松岡享子 作
大社玲子 絵　Gakken

『はじめてのキャンプ』
小さい女の子なほちゃんは、大きい子たちと一緒に初めてのキャンプに連れて行ってもらう。「重い荷物を持つ」「絶対泣かない」などの約束を守ろうと、背伸びをして精一杯頑張るなほちゃん。キャンプの楽しみも教えてくれる本。

林明子 作・絵
福音館書店

『番ねずみのヤカちゃん』
ドドさん夫婦の家で4匹の子ねずみを育てるお母さん。人に気づかれずに静かに暮らすための知恵を歌にして教えるが、末の子ねずみヤカちゃんは、とにかく声が大きくて、ハラハラさせられっぱなし。思わず声に出して読みたくなる一冊。

リチャード・ウィルバー 作
松岡享子 訳　大社玲子 絵
福音館書店

『みどりいろのたね』
えんどう豆のたねといっしょに、みどり色のあめ玉も埋めてしまったあまちゃん。土の中でたねたちとあめ玉がけんかをはじめて…。たねたちVSメロンあめ!土の中での攻防戦には、思わず笑ってしまう。

たかどのほうこ 作
太田大八 絵　福音館書店

『おおきくなりすぎたくま』
ジョニーは森でこぐまを見つけて家に連れて帰るが、こぐまは大きくなり畑や納屋を荒らすようになった。そこでジョニーはくまを森に帰そうとする。ジョニーとくまの交流を描いた心温まる絵本。

リンド・ワード 文・画
渡辺茂男 訳　ほるぷ出版

『ちいさいおうち』
ちいさいおうちは、自然に恵まれた田舎の静かな丘で幸せな時を過ごしていたが、次第に周りは大都会になっていく。考え抜かれた構図と美しい色調で、ちいさいおうちの気持ちとともに時の流れが感じ取れる絵本。

バージニア・リー・バートン 文・絵
石井桃子 訳　岩波書店

『ひとまねこざると きいろいぼうし』
ひとまねが大すきなおさるのジョージは、黄色い帽子のおじさんに連れられ、アフリカから船で町にやって来た。ところが、持ち前の好奇心から次々と騒ぎを引き起こす。いつも明るく元気いっぱいのジョージの姿が子どもたちの共感を呼ぶ。

H.A.レイ 文・絵
光吉夏弥 訳　岩波書店★

『ペレのあたらしいふく』
ペレは、自分のこひつじの毛を刈り取り、新しい上着を作ることにした。糸を紡ぎ、染め、服に仕立てるまでを、お手伝いとひきかえに大人に協力してもらう。大人達の見守る中、自分の力で新しい服を手に入れたペレの清々しい達成感が描かれる。

エルサ・ベスコフ 作・絵
おのでらゆりこ 訳
福音館書店

『あおい目のこねこ』
元気なこねこがねずみの国を見つけに旅をする。途中、魚や黄色い目のねこたちに出会い、青い目をばかにされたり、意地悪をされたりするが、「なんでもないさ」とつき進み、ついにねずみの国を見つける。こねこと一緒に冒険する気分を味わえる物語。

エゴン・マチーセン 作・絵
せたていじ 訳　福音館書店

『エルマーのぼうけん』
どうぶつ島へと冒険の旅に出たエルマーは、知恵を使って、トラやライオンなど恐ろしい猛獣を出しぬき、とらわれのりゅうを助け出す。半世紀近く読み継がれる幼年童話。

ルース・スタイルス・ガネット 作
ルース・クリスマン・ガネット 絵
わたなべしげお 訳
福音館書店★

『きえた犬のえ（ぼくはめいたんてい1）』
探偵のネートは、友達のアニーから自分がかいた「犬の絵」をさがしてほしいと頼まれる。きえた犬の絵をみつけるため、小さなヒントから事件を解決していくネート。謎解きの面白さも楽しめる作品。

マージョリー・W・シャーマット 文
マーク・シーモント 絵
光吉夏弥 訳　大日本図書★

小学校 1・2年

『すずめのくつした』

靴下工場の息子のアンガスとすずめのブルースは大の仲良し。ある寒い冬の日、震えるブルースのために、アンガスは父さんの工場ですずめの足に合わせてちっちゃな靴下を編む。靴下は大評判になり、アンガスはブルースの友達にも次々と靴下を編んでゆく。

ジョージ・セルデン 文
ピーター・リップマン 絵
光吉郁子 訳　大日本図書

『なぞなぞのみせ』

50問のなぞなぞが楽しめる絵本。女の子がおばあちゃんと買い物をしている文房具屋やケーキ屋などの店内の絵を手がかりに、なぞなぞを解くことができる。丁寧に描かれた絵は探し絵としても楽しめ、文章では表されていない二人の買い物の様子も感じられる。

石津ちひろ なぞなぞ
なかざわくみこ 絵
偕成社

『こいぬがうまれるよ』

「いいことおしえてあげようか？」こいぬをもらうことになった「わたし」のわくわくした思いに引き込まれてお話が始まる。こいぬが誕生する時の臨場感や、母さん犬との深い絆、日々の成長を小さな女の子の言葉で綴った写真絵本。

ジョアンナ・コール 文
ジェローム・ウェクスラー 写真
つぼいいくみ 訳　福音館書店

『たんぽぽ』

かわいらしく、きれいなだけではないたんぽぽの生態がよくわかる。根はどうなっているのだろう。花にはどんな秘密があるのだろう。ふだん何気なく見ているたんぽぽの知恵やたくましさを感じ、新たな発見がある。あなたは「たんぽぽをしっていますか。」

平山和子 文・絵
北村四郎 監修
福音館書店

『ピーナッツ なんきんまめらっかせい』

まめがなぜ地中に？地中に実をつける落花生の不思議や疑問が解ける楽しい科学絵本。実物のように描かれた絵が落花生の成長を明らかにしてくれる。落花生の成長が繰り返し楽しめるしかけや、好奇心をくすぐる表現が魅力的。

こうやすすむ 文
中島睦子 絵　福音館書店

『王さまと九人のきょうだい』

悪い王さまの出す難題を、九人の兄弟がそれぞれの長所をいかして乗り切り、王さまをこらしめる物語。9回の繰り返しが子どもに喜ばれる中国の民話絵本。

赤羽末吉 絵
君島久子 訳
岩波書店

『子どもに語る日本の昔話』

その昔、囲炉裏を囲んで語られたような味わいのある昔話。地域特有の語り伝え方や方言も入り、一日の終わりや、ほっとした時間に身近な人に読み聞かせてもらいたい作品。親子で共有できるお話を声にのせて伝えたい。

稲田和子 再話
筒井悦子 再話
多田ヒロシ カット
こぐま社（全3巻）

小学校 3・4年

『セロひきのゴーシュ』

町の楽団のセロひきのゴーシュは演奏がへた。音楽会をひかえ毎晩猛練習をしていると、猫やかっこうなどが訪ねてくる。動物たちとの奇妙な練習をするうちにみるみる上達して…。作品が持つ独特の世界観を表現した挿絵も魅力。

宮沢賢治 作
茂田井武 絵
福音館書店

『がんばれヘンリーくん』

ヘンリーくんは小学3年生の男の子。ある日、ひろったがりがりのやせ犬アバラーといっしょに、次々にゆかいな事件をまきおこす。子どもたちの日常を生き生きと描いた楽しいお話。

ベバリイ・クリアリー 作
松岡享子 訳
ルイス・ダーリング 絵
Gakken★

『くまのパディントン』

南米のペルーからロンドンにやってきたくまのパディントンは、ブラウンさん一家と暮らし始める。好奇心旺盛で天真らんまん。行動すると必ず騒動を起こすパディントンは、一家のかけがえのない一員になっていく。

マイケル・ボンド 作
ペギー・フォートナム 画
松岡享子 訳
福音館書店★

『百まいのドレス』

ワンダは貧しく、いつも同じ服を着ている女の子。ドレスを百枚持っていると言ったためからかわれる。ワンダが遠くに引っ越して行った後、教室には百枚のドレスの美しい絵が飾られていた。マデラインはからかったことを後悔して…。

エレナー・エスティス 作
ルイス・スロボドキン 絵
石井桃子 訳
岩波書店

『ポリーとはらぺこオオカミ』

おなかをすかせたオオカミがポリーを食ってやろうと、「赤ずきん」や「三びきの子ブタ」などをまねして奮闘するが、ポリーの方が一枚うわで、いつもやりこめられる。まぬけなオオカミと賢いポリーのゆかいなお話。

キャサリン・ストー 作
掛川恭子 訳
マージョリー＝アン・ワッツ 絵
岩波書店★

『エンザロ村のかまど』

アフリカ・ケニアのエンザロ村には、どこの家にも日本人が伝えたかまどがある。遠くはなれたアフリカの村になぜ、かまどがあるのだろうか？日本とケニアの不思議なつながりを、村の人たちの住まいや食事、暮らしぶりを交え伝える絵本。

さくまゆみこ 文
沢田としき 絵
福音館書店

『カミツキガメはわるいやつ？』

日本にはいなかったカミツキガメが、印旛沼やその周りで増えている。かみつくなどの被害を減らそうと捕まえられているが、外国から人間によってつれてこられたカミツキガメは、わるものなのか。カミツキガメの暮らしを観察した写真絵本。

松沢陽士 写真・文
フレーベル館

ほかにもこんな本がおすすめです

●小学校1・2年

『アボカド・ベイビー』…ジョン・バーニンガム 作　青山南 訳　ほるぷ出版
『きいろいばけつ』…もりやまみやこ 作　つちだよしはる 絵　あかね書房★
『こぶたのピクルス』…小風さち 文　夏目ちさ 絵　福音館書店★
『ジオジオのパンやさん』…岸田衿子 作　中谷千代子 絵　あかね書房
『しっぱいにかんぱい！』…宮川ひろ 作　小泉るみ子 絵　童心社★
『しょうたとなっとう』…星川ひろ子　星川治雄 写真・文　小泉武夫 原案・監修　ポプラ社★
『たんたのたんけん』…中川李枝子 作　山脇百合子 絵　Gakken★
『どろんここぶた』…アーノルド・ローベル 作　岸田衿子 訳　文化出版局
『へっちゃらトーマス』…パット・ハッチンス 文・絵　小宮由 訳　大日本図書
『ろくべえまってろよ』…灰谷健次郎 作　長新太 絵　文研出版
『くまの子ウーフ』…神沢利子 作　井上洋介 絵　ポプラ社★
『1つぶのおこめ』…デミ 作　さくまゆみこ 訳　光村教育図書
『ことばあそびうた』…谷川俊太郎 詩　瀬川康男 絵　福音館書店★

●小学校3・4年

『100万回生きたねこ』…佐野洋子 作・絵　講談社
『あたまをつかった小さなおばあさん』
・・・・ホープ・ニューウェル 作　松岡享子 訳　山脇百合子 画　福音館書店★
『ちびドラゴンのおくりもの』
・・・・・・・・・イリーナ・コルシュノフ 作　酒寄進一 訳　伊東寛 絵　国土社
『黒ネコジェニーのおはなし』
・・・・エスター・アベリル 作・絵　松岡享子 訳　張替惠子 訳　福音館書店★

『ぼくは王さま』

王さまはたまごやきが大好き。ある日、王子さま誕生のお祝いに、国中の人にたまごやきをごちそうしようと「ぞうのたまご」を探させることになったが…。「ぞうのたまごのたまごやき」他、王さまがくりひろげるゆかいなお話4話を収録。

寺村輝夫 作
和田誠 絵
理論社

『大どろぼうホッツェンプロッツ』

おばあさんの大事なコーヒーひきを盗んだ大泥棒を、孫のカスパールと友人のゼッペルが追跡。魔法使いや妖精も登場し、少年たちが知恵を絞って大泥棒と渡り合う。テンポが速く、ユーモアたっぷりの冒険物語。

オトフリート・プロイスラー 作
中村浩三 訳
偕成社★

『火曜日のごちそうはヒキガエル』

ミミズクにつかまってしまったヒキガエルのウォートン。自分が誕生日の日のごちそうだと知り、逃げ出す計画を立てるが…。心やさしいヒキガエルと、ひとりぼっちのミミズクとの心の交流を描く。

ラッセル・E・エリクソン 作
ローレンス・ディ・フィオリ 絵
佐藤凉子 訳
評論社★

『だれも知らない小さな国（コロボックル物語1）』

小学3年生の頃、秘密の遊び場で見かけた小指くらいの小さな人。時が過ぎ、またそこを訪れたことで、僕は彼らと再会する。もしかしたらコロボックルがそばにいるかもしれない、そんな気がするようなファンタジー。

佐藤さとる 作
村上勉 絵　講談社★

『小さなスプーンおばさん』

ある朝、おばさんが目を覚ますと、ティースプーンくらいに小さくなっていた。スプーンおばさんは頭を働かせ、時には小さな体を利用してユーモラスに困難を乗り越えていく。

アルフ・プリョイセン 著
大塚勇三 訳
ビョールン・ベルイ 絵
Gakken★

『時計つくりのジョニー』

ジョニーは手先が器用で、ものをつくるのがじょうずな小さな男の子。ある日、「大時計をつくろう」と思いたつ。親や教師にバカにされ、同級生に邪魔されても、ジョニーは懸命に時計づくりに取り組む。

エドワード・アーディゾーニ 作
阿部公子 訳
こぐま社

『長くつ下のピッピ』

ピッピは世界一力持ちな女の子。次から次に奇想天外なことを思いつき、すぐに行動してはひと騒動起こすが、その無邪気さや心の温かさが周りの人々に受け入れられる。ピッピの活躍を描いた三部作の一作目。

アストリッド・リンドグレーン 作
大塚勇三 訳　桜井誠 絵
岩波書店★

『二分間の冒険』

小学5年生の悟は、運動場のすみで黒猫のダレカに出会い、異世界に連れて行かれる。そこは子どもだけが住み、竜に謎かけと剣で戦わなければならない世界だった。元の世界に戻るため、悟はこの世界で一番たしかなものを探す。

岡田淳 作
太田大八 絵　偕成社

『ものぐさトミー』

トミー・ナマケンボの家は電気じかけ。ただ立っているだけで、機械がなんでもやってくれる。ある日、嵐がやってきて電気が止まったらさあ大変！抱腹絶倒のお話。

ペーン・デュボア 文・絵
松岡享子 訳
岩波書店

『ゆかいなホーマーくん』

アメリカの小さな町に住むホーマーくん。ペットのスカンクと一緒に強盗を捕まえたり、機械が故障してたくさんのドーナツができてしまったり。思いがけない事件が次々と起こり、ワクワクドキドキ感満載の6編を収録。

ロバート・マックロスキー 作
石井桃子 訳
岩波書店

『版画のはらうた』

野原の小さな生き物たちの思いを詩にした本。版画の文字と挿絵は、絵と言葉が一体となりダイナミックな詩の世界を表現している。彼らの個性が光る、生きる喜びにあふれた様々な詩は、ぜひ声に出して楽しんでほしい。

くどうなおこ 詩
ほてはまたかし 画
童話屋★

『冒険者たち ガンバと15ひきの仲間』

ドブネズミのガンバは島ネズミを苦しめるイタチのノロイ一族と戦うため、15匹の仲間と夢見が島に向かう。仲間同士助け合い、知恵と勇気をふりしぼって困難を一つ一つのりこえていく。

斎藤惇夫 作
薮内正幸 画　岩波書店★

『スーホの白い馬』

モンゴルの楽器「馬頭琴」の由来を伝える民話絵本。貧しい羊飼いの少年スーホの白馬が競馬で優勝するが、白馬は殿様にとりあげられてしまう。白馬はスーホのもとへ命からがら逃げ帰るが…。モンゴルの風景が横長の画面をいかして描かれている。

大塚勇三 再話
赤羽末吉 画
福音館書店

『イギリスとアイルランドの昔話』

日本でも有名な「三びきの子ブタ」「ジャックとマメの木」など、イギリスの昔話22編と、ばけものの出る教会で仕立て物をしあげてほうびをもらう「元気な仕立て屋」など、アイルランドの昔話8編が入った昔話集。語りにも向いている。

石井桃子 編・訳
J.D.バトン 画　福音館書店

小学校 5・6年

『魔女の宅急便』

魔女のキキは、13歳になる年に親元を離れ、知らない町で独り暮らしを始める。ほうきで空を飛んで届け物をする宅急便屋となり、変わった依頼を受けながら町になじんでいく。キキと黒猫のジジの一年間を描いた物語。

角野栄子 作
林明子 画　福音館書店★

●小学校3・4年

『ながいながいペンギンの話』…いぬいとみこ 作　山田三郎 絵　理論社
『なんでもただ会社』
・・・・・・ニコラ・ド・イルシング 作　末松氷海子 訳　三原紫野 絵　日本標準
『ぴりっかすの神さま』…岡田淳 作・絵　偕成社
『小さなバイキングビッケ』
・・・ルーネル・ヨンソン 作　エーヴェット・カールソン 絵　石渡利康 訳　評論社★
『イチからつくるカレーライス』
・・・・・・・・・・・・・・関野吉晴 編　中川洋典 絵　農山漁村文化協会
『車のいろは空のいろ』…あまんきみこ 作　北田卓史 絵　ポプラ社★
『ちびっこカムのぼうけん』…神沢利子 作　山田三郎 絵　理論社
『チョコレート戦争』…大石真 作　北田卓史 絵　理論社
『菜の子先生がやってきた！』…富安陽子 作　YUJI 画　福音館書店★
『子ブタシープピッグ』
・・・ディック・キング＝スミス 作　木原悦子 訳　メアリー・レイナー 絵　評論社
『風にのってきたメアリー・ポピンズ』
・・・・・・・・・・・・・・・・P.L.トラヴァース 作　林容吉 訳　岩波書店★
『しずくの首飾り』
・・・ジョーン・エイキン 作　猪熊葉子 訳　ヤン・ピアンコフスキー 絵　岩波書店

●小学校5・6年

『くろグミ団は名探偵』…ユリアン・プレス 作・絵　大社玲子 訳　岩波書店★
『黒ねこサンゴロウ1』…竹下文子 作　鈴木まもる 絵　偕成社★
『どうしてかわかる？ 世界のなぞかけ昔話1』
・・・・・・ジョージ・シャノン 文　ピーター・シス 絵　福本友美子 訳　晶文社★
『ドリトル先生アフリカゆき』
・・・・・・・・・・ヒュー・ロフティング 作・絵　井伏鱒二 訳　岩波書店★

『ルドルフとイッパイアッテナ』

ひょんなことから見知らぬまちに来てしまった猫のルドルフ。出会ったボス猫のイッパイアッテナは少し怖いけれど頼れる存在で、特技は人間の文字を読むことだった。ルドルフはノラ猫生活の知恵を学びながら、文字も学ぶことに。

斉藤洋 作
杉浦範茂 絵　講談社★